

# 病床に係る報告について（病床機能の転換等）

令和8年2月10日（火）

沖縄県医療政策課

# 病床にかかる地区協議会での協議・報告について

	事項	対応方法
1	病床の新規設置、増床	病床の新規設置、増床は県から病床の配分を得る必要があります。 既存病床数が基準病床数を上回っている圏域では、原則病床配分はありません。
2	同一法人間の病床移動	病床過剰地域への移動、過剰地域内の移動は事前に地区協議会で協議を行う必要があります。 病床非過剰地域内での移動、病床非過剰地域への移動は報告事項です。
3	病床種別（一般・療養）の変更	過剰な病床機能への変更を伴う病床種別変更は協議事項です。非過剰な病床機能への変更にかかる病床種別変更は報告事項です。
4	病床の廃止	医療機関又は県が協議会へ報告します。ただし、構想区域において担うべき医療機関としての役割や機能を大きく変更する病院の場合は報告等が必要となります。
5	病床機能の転換	圏域内で過剰となっている病床機能への転換は原則できません。過剰となっていない機能への転換であれば、協議会で報告してください。
6	入院料の変更	入院料の変更だけであれば、協議・報告ともに必要ありません。ただし、病床機能の変更を伴う場合は、協議・報告が必要となります。

※まずは、医療政策課企画班にお問い合わせください。

第1回八重山地区医療提供体制協議会「資料4」（抜粋）



# (宮古医療圏) 沖縄県立宮古病院

## 【背景】回復期病院の無い宮古医療圏

宮古医療圏には回復期病院が無く退院時の転院先が不足

➡ 回復期病床の整備が重要な課題となっていた

● 病床機能報告(2023年度)と病床数の必要量(2025年度)の割合の比較

(「令和7年度 第1回 宮古地区医療提供体制協議会」資料抜粋)



- 必要病床数を上回る数の病床がある
- (高度急性期+急性期)の合計が必要病床数を回っている。
- 一方で、回復期が大幅な不足となっている。
- 慢性期は必要病床数を上回っている。

### 宮古医療圏

急性期病床→136床過剰  
回復期病床→99床不足

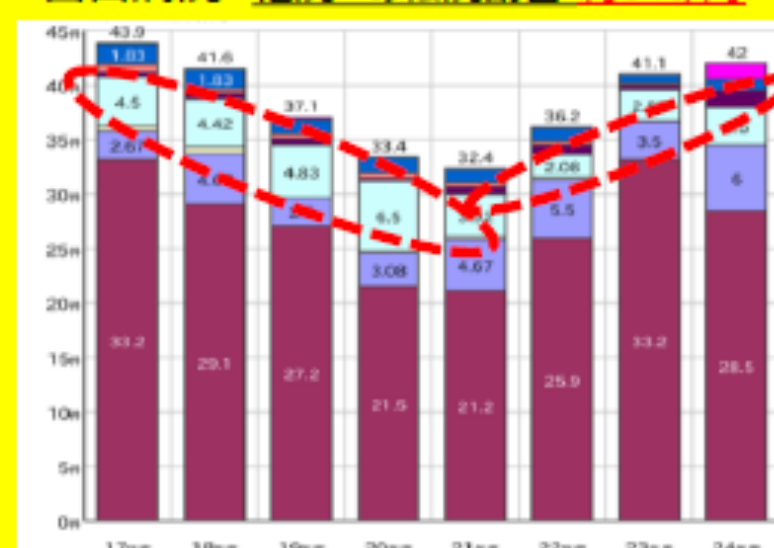
R7.3当時 宮古地域 回復期機能病床届出医療機関

- ・宮古病院 地域包括ケア病床 25床
- ・宮古島徳洲会 地域包括ケア病床 10床

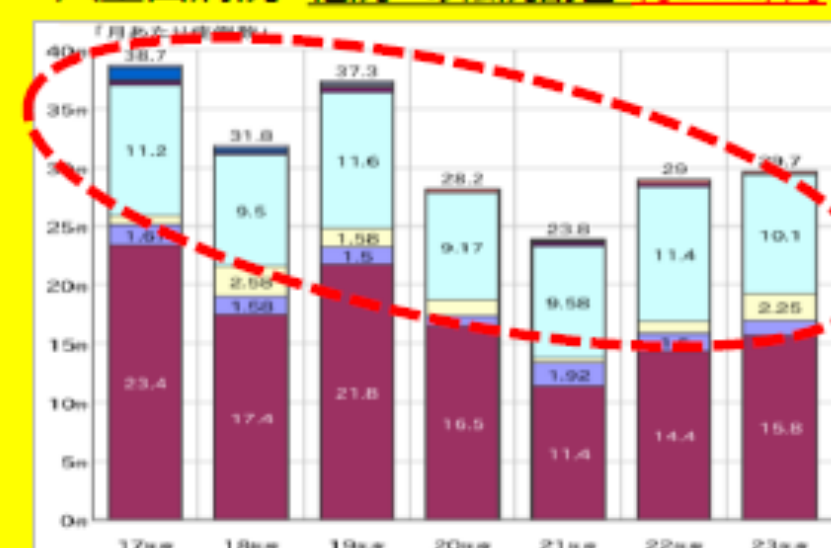
※回復期リハビリテーション病棟入院料届出なし

### 参考 宮古病院・八重山病院 他院への転院数比較(整形外科患者)

・宮古病院 他院への転院割合 約8%/月



・八重山病院 他院への転院割合 約34%/月





# 【結論】地域のニーズが病院の要望と重なり 経営改善へと繋がった病棟再編

## 今回の取組み

### 【地域のニーズ】

回復期病床を整備するため地  
ケア病棟を拡大  
地ケア病床25床→病棟47床へ

### 【病院のニーズ】

地ケア病棟への患者転棟で  
一般病棟の重症度を上昇させ  
7対1看護体制を導入  
10:1看護 173床  
→7:1看護 138床へ

### 【経営のニーズ】

患者数はそのまま入院単価  
を上昇させる改善取り組みで  
医業収益を増加させる  
入院収益(R7年度年間予想)  
→前年比約9.5%増

## R7年5月1日算定開始前後の比較

回復期患者の受け皿としての機能を発揮！

- ・DPCⅡ期以内の退院割合 R7.1月63.4%→R7.11月 72.8%  
(地ケア除く)
- ・地ケア1日平均入院患者数 R7.1月22.8人→R7.11月 46.5人

7対1との地ケアのすみ分けで患者導線が効率化！

- ・病床利用率 R7.1月92.1%→ R7.11月 98.0%  
(一般病床のみ)
- ・入院患者延数(全体) R6年度 80,269人  
→R7年度年間(予想) 83,637人

R7年度収益は過去最高ペースで稼働中！

- ・医業収益(全体) R6年度年間 58.2億円  
→R7年度年間(予想) 62.2億円
- ・一般病床入院単価 R7.1月51,961円→ R7.8月 55,436円  
(地ケア含む)



# 【結語】離島での持続可能な病院経営目指して

## 今後の宮古医療圏はどうなるのか？

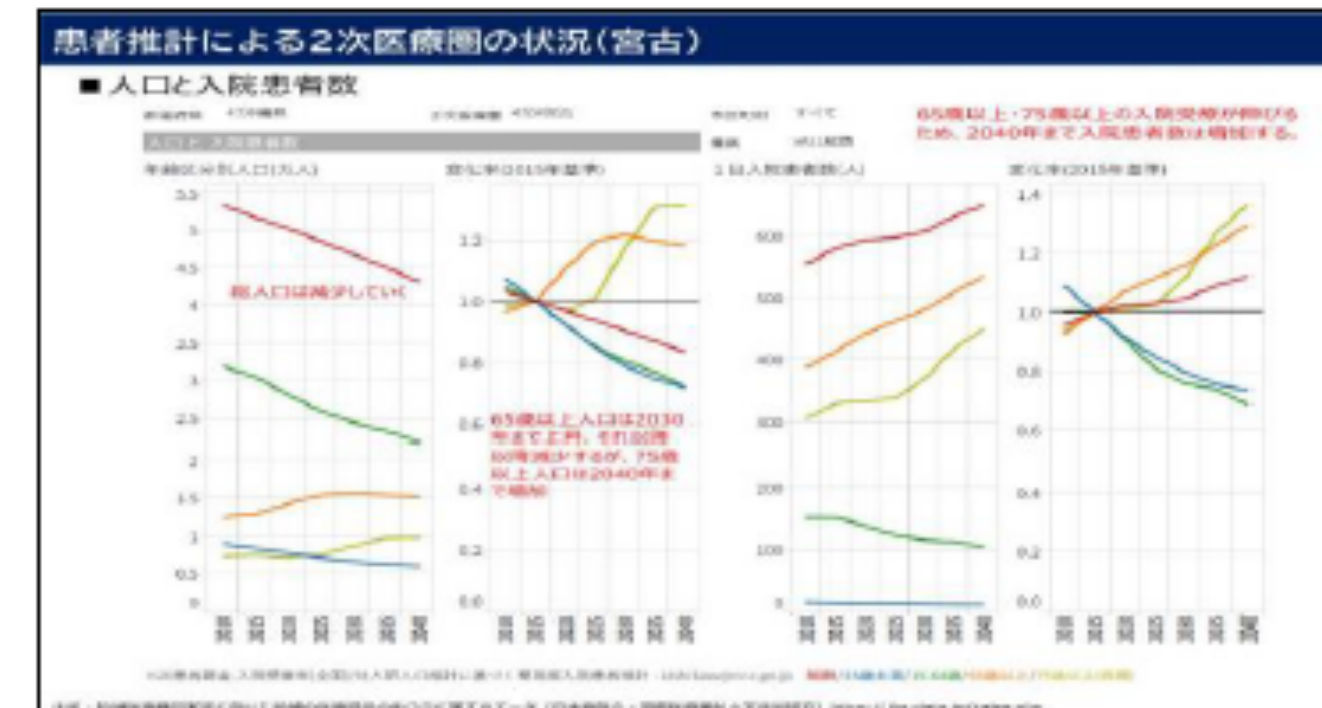
### これからの医療需要は？

宮古島は総人口は減っていくが、65歳以上・75歳以上の入院受療が伸びるため2040年まで入院患者数は増加する



### さらなる回復期病床の拡充検討が必要

高齢化により脳梗塞、心不全等の循環器系や大腿骨頸部骨折等が増加するため、今後回復期病床の必要性が増すことが予想される  
地ケア病棟拡充、回復期リハ導入等を含め診療報酬改定の動向を注視しながら検討が必要



今後も常に地域のニーズを検討しながら課題を抽出し、変化を恐れず課題解決を目指す病院体制を構築していく！



2.

（八重山医療圏） 沖縄県立八重山病院

変更点 1 | 急性期から回復期（包括期）への病床機能の転換

項目	変更前	変更後	備考
病床機能	急性期（全体209床のうち45床）	回復（包括）期（39床）	八重山地域で不足している病床機能への転換（報告事項）
入院料	急性期一般入院料4	地域包括ケア病棟入院料2	看護師不足で休床していた3階東病棟を再稼働した。（令和7年12月からGCU6床を休床し看護師を確保） <b>地域包括ケア病棟を新設予定。</b>
稼働状況	休床（令和7年3月～11月）	再稼働・新規開設	

変更点 2 | GCUの休床

変更前	変更後	備考
6床 （～令和7年11月）	休床 （令和7年12月～）	GCU対象患者はNICUで対応

- 【背景】
- 八重山医療圏に回復期（包括期）病床が不足している。
  - 少子化によりGCUの稼働率が30％～50％程度と低い状態が続いている。

- 【対応策と地域における役割への影響】
- 急性期中核病院としての機能は維持しつつ、八重山医療圏に不足している回復（包括）期病床の整備
  - レスパイト入院の受入